

(資料1) 令和5年度 磐田市立青城小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
自分の考えを深め(知)表現する子	課題を自分ごとにする授業の充実 ・問いや考えを引き出す授業展開の工夫 ・ICT機器の活用を含む対話活動の工夫	子どもたちは、進んで考えたり、友達と話し合ったりして、自分の考えを深めることができたか。	A	・校内研修のテーマを「主体的に学ぶ子の育成」として、静岡県総合教育センターの指導・助言を受けながら、授業改善に取り組んだ。 ・特に「PDCAサイクルを生かした単元構想」に重点を置き、研究を進めた結果、教員が単元全体を通して児童の主体性を育てようという意識をもつことができた。 ・授業のまとめや振り返りの時間を確保し、学習用端末とノートのそれぞれのよさを生かして授業を進めることができた。	・話し合いを授業の中に多く取り入れている。授業が自主的(主体的)に進められている様子を何度も見た。 ・学習指導要領の改訂を先生たちが前向きに捉えてくださっているのが分かる。 ・児童も保護者も学習に対して前向きな意見をもっており、日頃から教員の皆さんが研修テーマをもとに授業改善に取り組んでいることが分かる。 ・学習用端末を上手に工夫して使い、有効に授業を進めていることが理解できる。 ・参観会の様子を見ると、先生方の授業の工夫が感じられた。発表会形式の授業ではICT機器、画用紙、模造紙を上手に使い、発表の形態も個人、グループ、全体といろいろあった。少し残念だったのは発表の声の大きさ。コロナの影響か、子どもたちの声が小さいように思えた。 ・参観会では、先生たちが一生懸命に取り組んでいる様子がよくわかった。子どもたちが自由に発表や表現している姿、保護者のにこやかな笑顔、心温まる参観会だった。 ・月に1回の対話タイムを設定し「話す・聞く」のトレーニングを行っているのは、コミュニケーション力をアップさせるよい方策だと思う。 ・話すトレーニングは大事。自分の考えを言葉で分かりやすく伝えること、本を読んでいろいろな言葉を学んでほしい。語彙力を高めてほしい。 ・日本には少ないディベートの教育方法を取り入れるのもよい。相手の意見に反対をするのは、なかなか難しい。そのことを小さな時から学ぶことはすばらしい。授業も一方的に受けるだけでなく、自分の意見を持ち、それを発表できるとよい。
	学んだことを自分の力で表現する取組 ・授業のまとめや振り返りの時間の確保	子どもたちは、授業の内容が理解できたか。	A	・月に1回、対話タイムを設定した。1対1のペアで「話す・聞く」のトレーニングを行い、話すことへの抵抗感を減らすことができた。 ・児童の90%、保護者の89%が、「授業で学習した内容を理解している。」と評価しており、高い教育効果が出た。 ・令和2年度より新学習指導要領が施行され、長いスパンで子どもたちの学びを評価し、指導に生かす必要性を感じているため、現在の学期ごとの通信票で評価する方法を改善したいと考えている。	
自分も相手も大切に(徳)進んで行動できる子	心と心のキャッチボール ・心をつなぐ「あいさつ運動」の推進 ・「ほめほめチャレンジ」の実施	自分に合ったあいさつを考え、目標をもって取り組むことができたか。	B	・自分に合ったあいさつを考えて取り組むことができたことと評価した児童は89%だが、保護者は84%、教員は76%と、課題があると感じている。PTAや中学生のあいさつ運動に継続して取り組んでいるが、自分から進んで気持ちのよいあいさつができる児童は少ない。来年度は「相手を意識して、相手に伝わるあいさつができる子」を目指し、様々な手立てを講じながら重点的に取り組んでいく。 ・「ほめほめチャレンジ」は、子どもたちの自己肯定感、自己有用感等を高めるために効果的であった。継続していきたい。 ・「もくせいタイム」は、隔週にして、行事や時期ごとの生活テーマをより意識できる形にしたが、意識を長く持続させることが難しかった。来年度に向けて、実施方法や回数等を検討していく。	・小学生のあいさつが以前より少ない気がする。コロナの影響かもしれないが残念。こちらから声を掛けても返事がないことが多い。中学生からはあいさつが返ってくる。 ・あいさつができる子が多いとは感じないが、南中生はよくあいさつを返してくれる。きっと小学校よりの指導が中学生になると生かされているのではないかな。 ・小学校では、廊下ですれ違った子どもたちにあいさつをしてもほとんど返ってくることはない。「この人は誰だ。」みたいな雰囲気を感じられる時がある。小学生ならではの無邪気なあいさつがあってもよい。思春期の中学生が気持ちのよいあいさつができていないのは不思議。心地よく感じられるのは、皆一緒だと思う。 ・幼少で連携を取りながら、幼稚園の年代でも元気なあいさつが定着できるとよい。こども園の先生方は、いつも明るいあいさつをしてくれるので、子どもたちがまねしてくれることもよい。 ・あいさつに対する評価を見ると、あいさつに対する考え方に子どもと大人では差があると感じた。 ・大人もコロナ禍の中で地元の行事がなかった。子どもとの触れ合いも少なく、あいさつもしにくいのではないかな。大人から進んであいさつをしていきたい。 ・自分に合ったあいさつを考えて取り組むことは、大人でもなかなかできないと思う。元気よくあいさつができれば十分と思う。 ・あいさつは習慣化できるように取り組んでほしい。 ・月に1、2回、子どもたちの帰宅時に見守り活動をしており、なるべく子どもたちに話し掛けている。8年間見守りをしているので、子どもたちの成長過程を自分の孫のように頼もしく思う。 ・「ほめほめチャレンジ」「もくせいタイム」「つながり週間」に加えて「そのだんのへや」を新たに開設し、子どもたちの成長に尽力されていることは高く評価できる。 ・「そのだんのへや」は、校長・教頭以外に、担任以外の先生にも相談できると広がると思う。
	自己を見つめ強みを伸ばす取組 ・「もくせいタイム」の充実 ・「つながり週間」の活用	子どもたちは、今の自分を振り返り、自分を見つめなおすことができたか。	B	・「つながり週間」は、学校生活アンケートに書かれたことをもとに、担任が児童一人一人とじっくりと向き合う時間を確保した。子どもたちが安心して学べる学校につながった。 ・1月より「そのだんのへや」を開設し、児童が担任に相談しづらいことをメールで直接、校長・教頭に相談できるようにした。児童の心に寄り添い、緊急性のある内容にも対応できるようになった。	
ねばり強く(体)心と体をきかえ取り組む子	たくましい心と体づくり ・体育科授業や体育的行事を通してめあてをもたせ、振り返り、子どもの成長を促す	子どもたちは、めあてをもって運動し、最後までやりぬくことができたか。	A	・運動会の表現運動、持久走大会に向けてのジョギングタイム、長なわ記録週間など、子どもたちは自分が立てた目標に向かって最後までやり抜くことができた。低学年児童は、高学年児童が取り組む姿を見て、あこがれの気持ちを抱き意欲につなげることができた。 ・月に1回、保健委員会が「健康・安全の日」に行っている保健の目標についての全校放送を通して、子どもたちが健康や安全について学んだ。学府共通で取り組んでいる「こころの天気」では、自分の心を見つめ、自分の気持ちに気付くことができた。学府保健委員会でも「こころの天気」を取り上げ、保護者にも児童と同じ体験する場を設けて、よさを実感していただいた。	・運動会や持久走大会では、授業である以上、順位を付けることで自己評価し、自分に合った目標設定ができるようになってほしい。人と比べられることも、たくましい子を育てるために経験させてほしい。 ・運動会、持久走大会等で、めあてをもって取り組む機会は大切。R6の持久走は選択制になると聞いた。その子にとってめあての持ち方を選べるのは、主体性を育てることにつながり、とてもよいと思う。 ・親の送り迎えが多い。雨天時などの車での送迎は、頑張って徒歩で登校してほしい。保護者の送りたい気持ちは分かるが、本当にそれが子どものためになっているかを再考するきっかけが必要なのかもしれない。 ・肉体的にも精神的にもたくましくあってほしい。体を鍛えることで精神的にも強くなれると信じたい。 ・常日頃、子どもたちが外で遊んでいる様子を見るのがほとんどない。精神的にも肉体的にも「たくましい子ども」となるように御指導をお願いしたい。 ・音楽教育に熱心に取り組まれていた。校長先生のよさが出ていた。 ・レジリエンス教育が気になる。保護者にもしてほしい。苦しいことに打ち勝つことも必要。小さなことでよくよくよせず、おおらかな心で育つことを願う。 ・あぶトシ、食育は、継続して取り組んでほしい。毎年、同じ学年で取り組む形がよい。
	健康管理の意識向上 ・「健康・安全の日」を活用した呼び掛け	子どもたちは、自分の心と体に関心をもち、健康に生活できたか。	A		
学校頼づくれる子	保護者は、学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っているか。		A	・ホームページや各種便りなどで学校のよさや子どもの頑張りを発信してきたことで、保護者の86%から高い評価をいただいた。来年度も継続していく。 ・参観会や学校公開日、学校行事の公開等を通して、子どもたちが学校教育目標「自ら学ぶ たくましい子」に向けて取り組んでいる姿を見ていただくことができた。(保護者評価94%) ・普段から担任が保護者と本読みカードや連絡帳、電話、面談等で情報を共有することで、子ども理解が進み、効果的な指導や支援ができた。 ・以前より保護者から要望が上がっていたトイレ改修について、来年度7月から12月にかけて、北校舎東側(1~3階)トイレの改修工事を行う運びとなった。そのため、これまで夏休みに行っていた保護者との個人面談が設定できなくなり、学期中の設定を考えている。授業時数確保などの問題から、教育活動全体を見直す必要があり、検討を重ねている。現段階では、通信票を9月末と3月の2回とし、5月に教育相談、7月、11月に教育相談を設定し、学校と家庭が情報交換を密にして、共に子どもたちを育てていくことができるようにしたいと考えている。	・ホームページが毎日更新されていて、とてもありがたい。写真のところに学習のめあてを添えてくれるとさらに分かりやすくなる。 ・ホームページの掲載は、日々大変かもしれないが良く工夫されていてすごい。 ・ホームページは、タイムリーな情報の周知ができて素晴らしい。 ・ホームページは、地域にとって学校の様子が分かるありがたいツール。民生委員の方々にも伝えていきたい。 ・こども園と小学校で情報交換ができていて、来年度は中学校と教育目標が一体となり、こども園から中学までスムーズに教育が一本化していくことはよいと思う。 ・こども園から、小学校、中学校までの一貫教育を目指してほしい。 ・学校側と保護者側との連絡がスムーズにできている様子。協力し合って「自ら学ぶ たくましい子」を育ててほしい。 ・施設の老朽化は避けられないが、市の理解を得ながら進めていきたい。
	先生は、子どものことを理解して、指導にあたっているか。		A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

<知> ・「主体的に学ぶ子の育成」を目指し、授業改善に取り組んでいく。 ・通信票2回制を取り入れ、子どもの学びを見取る期間を十分に確保して評価し、授業改善に生かしていく。 ・学習用端末の効果的な使い方について、継続して探っていく。
 <徳> ・「相手を意識して、相手に伝わるあいさつができる子」を目指し、学校全体で様々な手立てを講じながら重点的に取り組んでいく。PTAや地域の方々とも協力して取り組んでいく。 ・「そのだんのへや」に継続して取り組んでいく。
 <体> ・「しなやかな心とたくましい体」を目指し、体育的活動を充実させたり、レジリエンス教育や「こころの天気」に取り組んだりしていく。 ・持久走は高学年で選択制を取り入れる。 ・防災教育として、自助意識が向上できるように避難訓練に取り組んでいく。
 <信頼> ・引き続き、こども園や中学校との連携を密にして、一貫教育を目指していく。 ・ホームページや各種便りなどで、学校の様子を公開していく。 ・学校評価の結果を生かして、よりよい教育活動を保護者とともに作り上げていく。